

## 2013年6月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、極うずは平年より強かった。ロシア北西部付近、沿海州から北日本、アラスカからカナダ中部にかけてリッジ（正偏差）、西シベリアではトラフ（負偏差）となった。大西洋の亜熱帯高気圧は平年より強かった。ユーラシア大陸では、亜熱帯ジェット気流が平年より強く、平年の位置から北偏し、寒帯前線ジェット気流は明瞭だった。日本付近では偏西風が分流した。帯状平均した北半球中緯度対流圏の気温は顕著な高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、北インド洋からフィリピン付近にかけてとインドネシア付近で平年より活発、南インド洋中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬から中旬にかけてインド洋から太平洋西部を東進し、下旬に大西洋に達した。対流圏下層の赤道域では、インド洋東部で西風偏差、太平洋西部では東風偏差だった。対流圏上層ではチベット高気圧が平年より強かった。南方振動指数は+1.7だった。

### 世界の天候

2013年6月の世界の月平均気温偏差は+0.19°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、6番目に高い値となった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.67°C/100年（速報値）である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

○インド東部～パキスタンにかけて異常多雨となった。

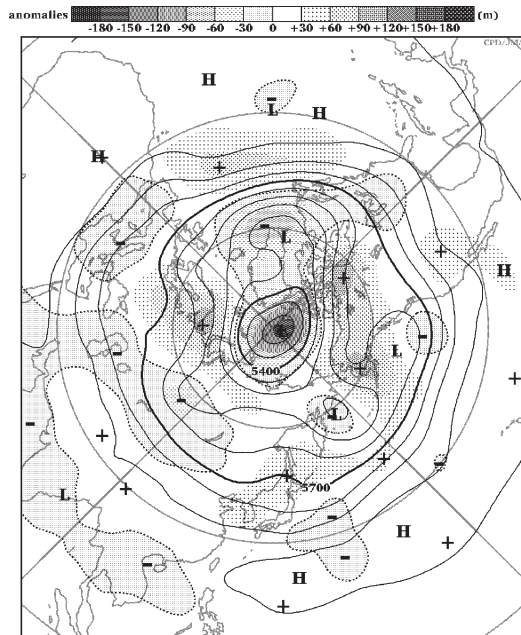
○ヨーロッパ中部では異常多雨となった。

○アラスカ～カナダ西部では異常高温となった。

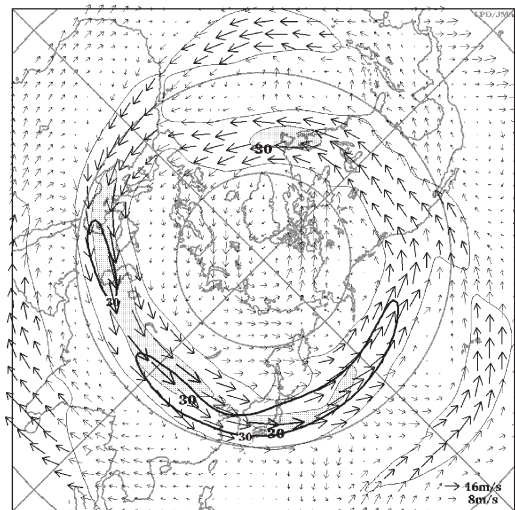
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

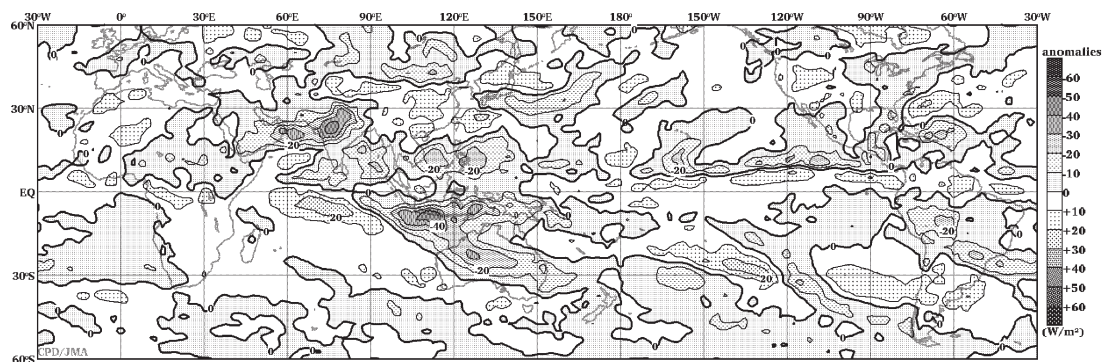


2013年6月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差  
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。

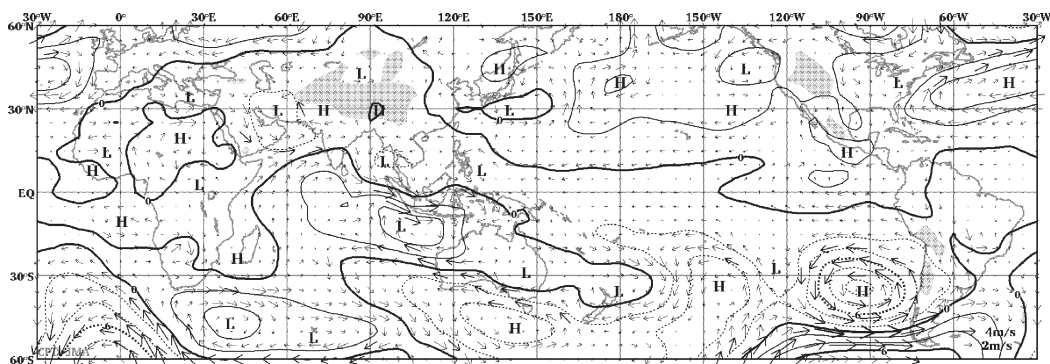


2013年6月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

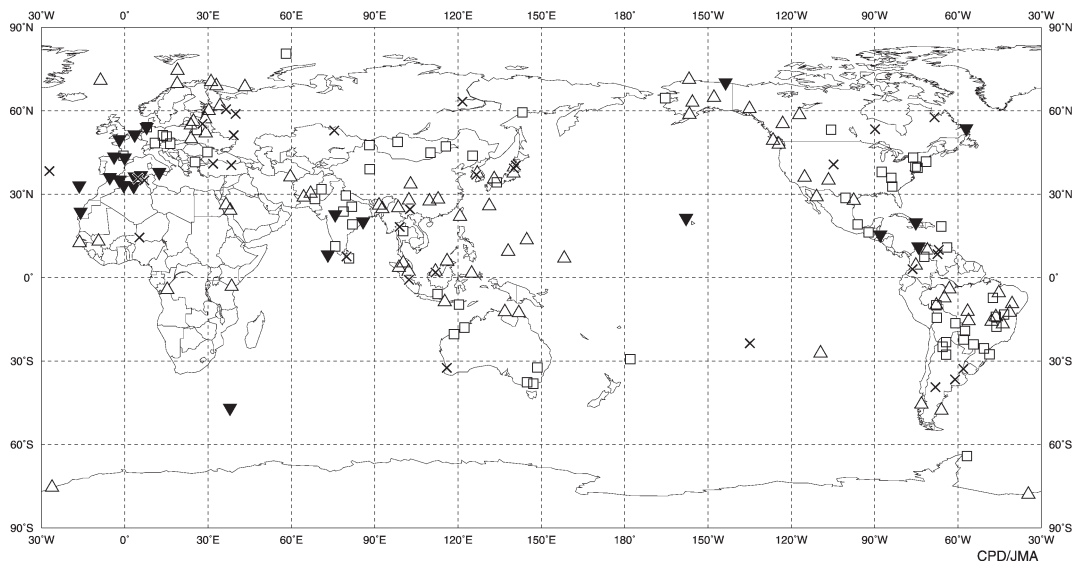
等値線間隔は15 m/s。陰影部は30 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年6月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。